

目次

岷江入楚

廿七	篝火	3
廿八	野分	11
廿九	行幸	37
卅	蘭	78
卅一	楨柱	99
卅二	梅枝	150
卅三	藤裏葉	184
卅四	若菜上	225
卅五	若菜下	315
卅六	柏木	394
卅七	横笛	426
卅八	鈴虫	446
卅九	夕霧	459
四十	御法	512
四十一	幻	528
四十二	雲隱	551

岷江入楚 廿七 篝火

(外題) ナシ(九)

篝火 三十六(高) ナシ(高九) 太政大臣 [竪双也]

源氏毀内大臣給事 近江君事也

秋始源氏渡西対給事

篝火事

枕琴副臥給事

源氏頭中将弁少将参西対合物音遊事

篝火 以詞并歌為卷名 竪并(高・九)

卷名 源氏哥
河かゝり火に立そふこひの煙こそ世にはたえせぬほの
おなりけれ 行衛なき空にけちてよかゝり火のたより
にたくふ煙とならば 詞御前のかゝり火のすこしきえ
かたなるを―― 又いとかけすゝしきかゝり火にかけ

とゞめられて―― 秘卷名以詞并歌号之 源卅六歳秋の
始の事也 竪並也

このころ世の人のことくさに 秘近江君の事を聞て源のゝ

給ふ也 いま姫君とは近江君の事也 悪事千里を

ゆく心也 篁世上の口遊ニ物のおかしきためしには此近

江君事を引出スヲ源氏の分別には内大臣のアツカイ不

足ナルヨシヲの給ト也

ともあれかくもあれ 秘よくもあれあしくもあれ女子なら

はうちにこそをかるへきを女御殿にあつけ給ふは然へ

からさると源は思ひ給ふと也 篁内大臣の御女トアルカ

ラハ其人の善悪にはよるマシキト也

なをさりのかことにても 篁篁曰此かことはいさゝかト

云ナルヘシ 謂ハいかかに不肖ナレハトテ親トシラレテ

トアラハシテハ有ましき事と也

かく人にみせいひつたへらるゝ 篁おもはしからぬ人ナラ

ハ奥フカニ心ニクキさまなるへきを女御殿ノ歴々ノ中

ヘサシ出メ人の嘲哂ニナシ給ハ如何ト也

心えぬことなれ 篁分別ノなき人ならは不審もなければと

内大臣分ニハいかなる分別とも源ノわきまへ給はさる